Talk & Talk
市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係（〒950-12　白根市大字白根1235　白根市役所企画調整課）です。

人との触れ合いから

丸山貞江（大通1）

以前から興味を持ちながらも、なかなか実現できなかったことが、今回叶えられました。そのことによって、人との触れ合いの輪が広がり、さらに視野も広がって、自分自身にとって非常にプラスになることでした。

その一つは、十六ミリ映写機操作です。講義・実技…。そして実技・筆記試験です。試験への緊張感を味わい、結果を待つこと一週間。待ちに待った「認定証」が送られてきました。（思わずバンザイ！）

もう一つは、手話です。有志指導者自主講座募集を見ているとき、「手話教室」という文字が飛び込み、すぐに申し込んでみました。初めて試みる手話。「はじめまして。私の名前は○○といいます。よろしくお願いします」ができたときの喜びは、非常に大きいものでした。あっという間に四回のコースを終了。もう少し勉強したくてサークルに参加し、今では毎週講師の先生をはじめ、楽しい雰囲気の中で勉強しています。今までとちょっと違った世界をのぞいている感じです。

これからも、いろいろな人たちとの出会い・触れ合いから良い方向へと進み、自分なりにチャレンジしていこうと思っています。

図書券をありがとう

関根壽夫（高校前通）

広報しろねのクイズに応募し、図書券が当たった。

そんなある日、娘が一歳の誕生日を迎えたばかりの孫娘を連れて遊びに来た。まだ言葉もシドロモドロで、腰をふらつかせてのよちよち歩き。「ほら、白根のじいちゃんだよ。じいちゃんはどれ」と母親に言われると、小さな人さし指を私に向けてニコッとする。そのおちゃめなしぐさがなんともかわいい我が家の初孫である。

そのとき、この図書券の行き先が決まった。早速、本屋へ行き、絵本を買ってプレゼントした。今では、絵本の中の果物や乗り物を少しずつ覚えはじめ、片言ながら話すようになった。

皇太子殿下浩宮様は幼いころ、絵本を読んでもらうのが大好きで、母親の美智子様から読んでもらい、大満足されると「うーん」と力を入れてご返事される。そのしぐさが、おじいさまの昭和天皇そっくりだったとのこと。

このように、子供は大人が読んでくれる本が大好きだ。私の孫も、同じく本を読んでもらうのが大好き。そして、絵本を読んでもらっているときに、浩宮様のように、私に少しでも似ているしぐさをするのではないかと思い、今は目を細め、その一挙一動を横目で観察している私である。

市民文芸

俳句

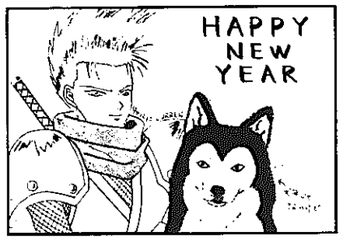
かりそめの恋のごとくに帰り花　和泉　伸子
やは肌といふ柔らかき葱洗ふ　小林　光子
露の身の娘に整ふる喪服かな　樋口　トシ
初雪に麻痺の足より一歩踏む　五十嵐智恵子
綿入のぞべなくとれし躾糸　山田　孝
着膨れて在せど眼炯々と　公條　雪夫
木の葉髪後添ひたりし二十年　成澤　素明
定年を迎へる年の日記買ふ　笠原　里津
大小の桶に収まる干大根　細貝　溪子
時雨る、や二重にかかる虹ありし　小林　すみ
（以上大風会）
祝ぐことば足らずじまいに寒の餅　真島つぎえ
エプロンの一日とけぬ妻師走　間島きよ子
神杉の木肌に深き初日かな　山田　栄一
街師走空は越後の空にあり　小野　義之
師走寒腰まげて編む納屋整理　小林　なお
なにかまだ忘れ残してはや師走　小林冨沙子
軒下にもぐら道あり師走凪　塚本　静子
極月の干支の置物えらびけり　名古屋庄一
極月の空間に居て無職の身　間島　秀穂
（以上かまつか新飯田俳句会）

短歌

新しき年迎うれば何もかも
光さしそい暗きことわする　大籏　イツ

特集
イラスト倶楽部

いつもたくさんのはがきをありがとう。冬休み中にせっせとかいてくれた作品を、今回はまとめて紹介します。



▲P.N CURRENさん

◀P.N踊り娘さん（大通南）

◀P.NO・英里さん（大通南）

◀坂井善行さん（臼井）

◀P.Nたけるさん（富井東・14歳）

◀P.Nモルル3世さん（大通南）

◀P.N茶々さん（桜町・10歳）

▲P.Nフォーチュンさん（七軒）

▲P.Nゴゴさん（臼井）

▲P.Nちょんびさん（水道町・11歳）

▲P.NAHOさん（南新町・13歳）

▲P.NN極さん（鷲ノ木新田）

♥イラストははがきに黒一色ではっきりと。薄い鉛筆書きはボツにします。
◆ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢を忘れずに。採用分には粗品を進呈
♣締め切りは毎月15日。それ以降に届いたものは翌月に回します
♠あて先　〒950－12　白根市大字白根－2－35　白根市役所広報しろねイラスト係

さわし柿ほどよきかたさに歯ざわりのサクッとこたえるその瞬間のよさ　出来島ミサホ
黄の落葉道いちめんに敷かれいて銀杏は裸木となりて冬待つ　村山　和江
老いつつも悔いなく生くるこの日頃歌あることのわが救いにて　星　ハツノ
大寒の野地蔵に上げしは誰ならむちゃんちゃんこ着てかいろ抱きます　阪井いくの
（以上星芒の会）
年毎に減りゆく賀状のその中に老師の賀状見るは嬉しき　剱　淑子
雨を含む疾風のあって庭木々の枝に積りし雪乱れ落つ　中村　京

川柳

カレンダー人目を盗む裸婦の像　山岡　フミ
無派閥の河童が右往左往する　吉川　彰
影武者の系図にあったあぶり出し　今井七郎
熱湯一分おまえもやはり受験子か　織田　福治
日日安穏昭和の唄で目を閉じる　織田　セツ
初詣無神論者にすべる雪　大谷　龍吉
やさしさに姑が鎧を脱ぎ捨てる　後藤マサノ
ゆっくりと味わってみる旅の膳　佐藤トミノ
即席ラーメンお前もたしか一人っ子　佐藤　ヨキ
冬山が男を鬼にするロマン　田村　恒夫
歯に衣着せた男の足が浮く　高橋祐四雄
天覧に輝やく金の星二つ　中村　尚治
お釣りだと思う命をいとおしむ　西条　ムラ
夢だけが先廻りする人生譜　早川　英男
（以上白根川柳文芸会）

※一月一日号で四句目の和泉伸子さんの句は「夕時雨立ち去り難き古書の市」です。お詫びして訂正します。